

「ボランティアの魂こそ復旧への底力」

4月11日から始まった石狩市の支援も、29日が実質作業の最終日。5月10日の臨時開館に向け、なんとしても一定の段階まで漕ぎ着けなければなりません。石狩、北広島、そして名取市の即席混成チームも、今ではすっかり意気もびったりしてきました。ただ、図書整理はどうしても人海戦術に頼るしかありません。この日も13人ものボランティアの方が応援に来てくれました。既に顔なじみとなるほど、2度3度とボランティアに来て頂いている方もいらっしゃいます。

名取市では、これまで読み聞かせ以外での図書館支援ボランティアはなかったとのことで、司書の方はこれを機に、市民協働にチャレンジしたいと目を輝かせていました。



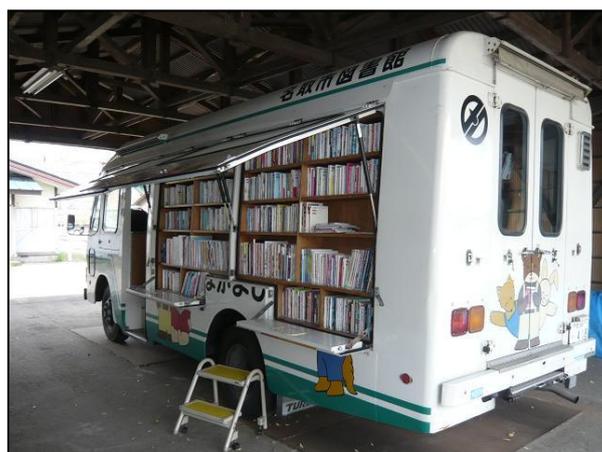
■2階の会議室から1階へ本を運びました



■2階から1階への運搬作業
重労働です



■2階から1階への運搬作業
重労働です



■移動図書館車を活用した
貸出も5月10日から

作業は混成チームのチームワーク、復旧に向けた市民ボランティアの熱意によって、予想以上のスピードで2階の図書全てを梱包のうえ階下への移動を完了しました。作業を終え、名取市司書の柴崎さんが挨拶の中で、5月10日の臨時開館に相当近づいたことを告げると、ボランティアの中から感嘆の声が上がりました。そう、この市民の熱い想いと行動が復旧の原動力なのだと、改めて感じ入りました。

「がんばろう、なとり」そして「ありがとう、なとり」

本日 30 日はいよいよ帰路に経ちます。長きに渡り、宿泊先と私達の健康を考えておいしく栄養バランスの取れた食事を提供していただいた「いろはや」の佐竹夫妻に感謝のお礼と別れの挨拶を告げた後、名取市図書館に最後の挨拶に出向きました。

なんと、そこには、名取市の丸山教育長と佐藤生涯学習課長もいらっしゃいました。私達の帰還するにあたり、忙しい中、わざわざ時間を割いてお待ちなられていたとのこと。ここでも感激のご挨拶となりました。



名取市図書館 石狩市民図書館 北広島市図書館 職員集合写真

思えば、名取市に来て以来、様々な方の思いやりに支えられた活動でした。先乗りした百井石狩市民図書館長をはじめ、第1班の方々がまず人との繋がりを重視し、築き上げてくれたことの功績が大ですが、「名取の人は人情深い」とおっしゃった閑上(ゆりあげ)保育所長の佐竹悦子さんの言葉が本当にそのとおりに思うほど、人情に絆された活動期間でした。

ハマボウフウの会の大橋さんは、閑上にあるご自宅が被災されたにもかかわらず、明るく元気に我々を励まして頂きました。寿司金の加藤さんにも暖かいお気持ちを賜りました。そして名取市図書館の皆さんには言い表せないほどお世話になりました。菅井図書館長には、避難所勤務と掛け持ちのなか私達の我儘までお聞き頂き、誠にありがとうございました。北広島市から駆けつけてくれた新谷図書館長、丸毛主査。大変頼もしく一緒にチームを組めたことは喜びに堪えません。

最後にボランティアをはじめ応援いただいた名取市市民の皆さん。「がんばろう なとり」で現地入りした我々ですが、今は溢れかえる「ありがとう なとり」の気持ちでいっぱいです。(完)



■スタッフ全員が笑顔になれました
がんばろう、なとり！



■「絆」も深まった職員間の交流
ありがとう、なとり！